



# おおくりかわ JOMON

～大栗川のほとりから～

創刊号

2026.6.20 発行

責任者: 堤 直樹

ookurijhmon@gmail.com

## 創刊に寄せて

今、私たちは、学校のテストの点数、企業の売上金額、SNSでのいいね！やフォロワーの数……、とにかく目に見える数字を常に意識した暮らしをしています。しかし、全ての人々が満足できる結果が得られるとは限らず、いわゆる格差が生まれ、何となく疲れた社会になってしまい、心休まる未来を描ききれなくなっているのではないのでしょうか。

かと言って、成す術なく諦めてしまうのはもったいないことです。AIの時代になってきたことも、今までのITC技術の蓄積があればこそです。今私たちが直面している様々な問題も、過去との繋がりの中で生まれてきたのは間違いありません。コンピュータなどの科学面だけではなく、考古学においても近年新たに発見されたりしていますが、その一つが、日本の縄文文化です。

およそ1万2000年～1万3000年前から2500～3000年ほど前まで、1万年以上の長きにわたって続いたのが縄文時代です。歴史の教科書ではさらっと触れられる程度でしたが、ここ数十年の間の調査で、この時代の意義を見直す動きが高まってきました。

縄文遺跡というと、青森県の三大丸山遺跡などの「北海道・北東北の縄文遺跡群」が2021年（令和3年）7月、ユネスコ世界文化遺産に登録されたことで、全国的な注目を浴びましたが、文化庁に登録されている関東の縄文遺跡数は、東北などに匹敵するものです。関東の中には東京も相当数あり、八王子、とりわけ大栗川沿い、由木地区にも数多くの遺跡があります。多摩ニュータウン開発に絡んで発見されたものも多く、主に東京都の管轄で整備されていますが、こういった事情を知る人はほんの僅かです。



私たちは2024年に活動を開始し、近所の小学校・帝京大学総合博物館・高齢者施設などで出前講座などを実施してきましたが、この度、会報「おおくりかわ JOMON」を発行し、定期的な発信を続けていくことになりました。

どうぞご期待ください。

(大栗川縄文クラブ代表 堤 直樹)